

「主体的・対話的で深い学び」とは？ ～優れた実践者、尊敬するあの先生はやっていた！？～

困ったら、基本に戻る！！

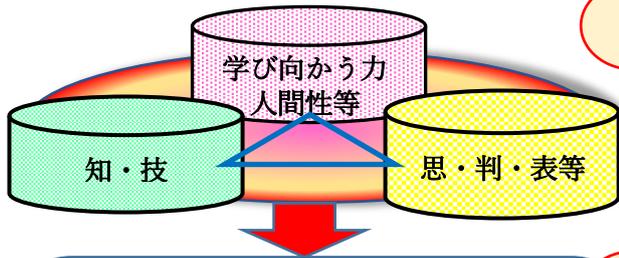
どう言うことなんだろう・・・？
私たちが言語能力を発揮する時です！

1 学習指導要領解説*¹では、次のように示している。

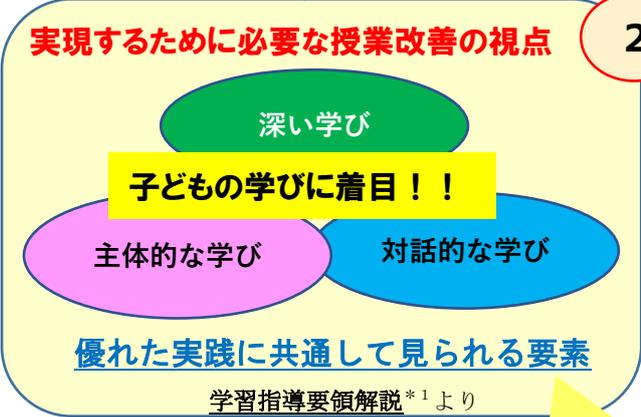
各教科等の指導に当たって、(1) 知識及び技能が習得されるようにすること、(2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること、(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養することが**偏りなく実現されるよう**、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと、その際、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、各教科等の学習の過程を重視して充実を図ることを示している。

*1・引用：特別支援学校学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）H30.
*下線部等は相馬支援学校編集者による

上記の文言を順序立てて考えると



1 各教科等の指導に当たって、(1) 知識及び技能が習得されるようにすること、(2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること、(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養することが**偏りなく実現されるよう**、



2 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと、その際、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、各教科等の学習の過程を重視して充実を図ることを示している。

つまり、資質・能力を育成するための授業改善の視点だということ。その構造を理解することから始めましょう！



優れた実践に共通して見られる要素？
あの尊敬する先生は、やっていた？！

次のページで、その内容が明らかに！！

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成^{*2}の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。

*2：「キャリア形成」とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための働きかけ、その連なりや積み重ねを意味します。

例えば・・・学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面が、自分の授業でありますか？



見通しと振り返りにより、自分の変容を知る。



対話によって、自分の考えを広げ、目標に迫っていく。

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

例えば・・・対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面が、自分の授業でありますか？



習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」^{*3}を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

*3：本校ホームページ『ちょっと聞きたいシリーズ①各教科等の特質に応じた「見方・考え方」』をご覧ください。

例えば・・・学びの深まりをつくりだすために、児童生徒が考える場面と教師が教える場面が、自分の授業でありますか？



知識を関連付けながら、問題を見だし、解決策を考える。

【まとめ】

これらの視点から分かるように、必ずしも1単位時間という授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して組み立てることがポイントとなります。

「すなわち、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない。」と、学習指導要領解説^{*1}で述べています。

その際、本校の単元案はシンプルで効果的です。



(文責：研修主任 富村和哉)